

議 事 録		作成日	担当
		2017. 2. 23	南海電気鉄道株式会社 酒井大輔
会議名称	第4回 道頓堀川水辺空間利用検討会		
開催日時	2017年2月23日(木) 14:00～16:00		
開催場所	南海電気鉄道株式会社 本社4階第2会議室		
出席者	(役職・敬称 略)(順不同)		
【委員】	加藤 座長(関西学院大学 名誉教授)、長尾(大阪市立大学 大学院経済学研究科 教授)、豊島(弁護士)、吉田(公認会計士)、北辻(道頓堀商店会)、高井(道頓堀商店街振興組合)、高橋(久左衛門町まちづくり協議会)、田中(道頓堀一丁目西櫓振興町会)、大谷(塩草連合会・稲荷二丁目振興町会)		
【大阪市関連部局】	木戸(中央区役所)、武内(浪速区役所)、橋本(経済戦略局)、山中(建設局 河川・渡船管理事務所)		
【事務局】	上田・日下部・椋本・田淵・辻野・外勢(建設局河川課)		
【管理運営事業者】	和田・嵯峨・酒井・新井(南海電気鉄道株式会社) (23名)		
	提供資料	作成元	
資料-1	前回検討会(平成28年6月16日)の振り返り	事務局(建設局 河川課)	
資料-2	平成28年度上期・下期(見込み)の管理運営状況について	管理運営事業者(南海電気鉄道株式会社)	
資料-3	平成28年度上期・下期(見込み)の収支状況について		
資料-4	西側エリアの新たな賑わい創出に向けた独立型店舗のエリア拡大について【試行実施】		
資料-5	広告に関する審査基準(利用ルール)の改正について		
資料-6	道頓堀川におけるネーミングライツに関わる取り組みについて	事務局(建設局 河川課)	
資料-7	御堂筋完成80周年記念事業について		
資料-8	オープンカフェ等の不適正利用について		
	議 事 内 容	備 考	
1. 議事		(者・発言部署)	
(1) 前回検討会(平成28年6月6日)の振り返り		椋本(河川課)	
<ul style="list-style-type: none"> 概要を説明 →写生授業については、南海電鉄(株)の協力のもと、平成26年度から西成区の南津守小学校により行われている。当時、この小学校より提案があったことからスタートしている取組みである。とんぼりリバーウォークまでの引率や天候等考慮しなければならない点はあるが、平成29年度より道頓堀川界隈の小学校に声掛けを行い、この取組みを広げていきたい。 →花の植替えについても、南海電鉄(株)の協力のもと、近隣小学校とともに行っている。本市建設局の公園部署では、「種から育てる地域の花づくり」事業を行っており、この事業とは、地域の皆様が自分たちの手で種から花を育て、その花を学校や区役所、公園等に植えることで、愛着を深めながらまちづくりを進めていくものである。最も手間がかかるのは、水やり等の維持管理であり、基本的には植えた場所(施設)の職員がメンテナンスを行っている。とんぼりリバーウォークでは、この維持管理は全て南海電鉄(株)が行っているが、例えば、沿川店舗の協力も含めた仕組みづくりについて検討していきたい。 →西側の魅力創出について、パネル展示を検討しており、本日の議題「御堂筋完成80周年記念事業」において話をさせていただきたい。 			
(2) 報告事項		新井(南海電鉄)	
<ul style="list-style-type: none"> ◆平成28年度上期・下期(見込み)の管理運営状況について ◆平成28年度上期・下期(見込み)の収支状況について 概要を説明 →昨年度は道頓堀川開削400周年の記念すべき年であったため、多彩なイベントにより盛り上がった。今年度は、さらなる賑わい創出を目標に掲げ、全ての項目において過去最高の結果を出すことができた。 →イベント件数は、200件を超える見込みである。ロケーション撮影は、グリコサインの更新により注目された平成26年度を上回った。また、オープンカフェは、最大出店数が30件を超過することができた。 →イベントを誘致する際には、開催プランやご利用イメージ等を提案することで、新たな音楽イベントを誘致することができ、課題であった平日イベントの増加につながった。 →ロケーション撮影については、音楽イベントや映画PRイベント等の増加により問い合わせが格段に増えており、映画PRイベントでは、オブジェを設置するものもあり、広告件数の増加にもつながった。 →オープンカフェを誘致する際には、複数月契約での割引制度に加え、平日イベントの増加をセールスポイントとして出店意欲を促すことで、12店舗の新規契約につながった。中には、イベントで集まった人を対象に店舗独自のサービスを提供する等、イベントとの相乗効果が生まれた。また、戎橋～太左衛門橋以外の西側・東側エリアにおいても新規店舗がオープンし、広いエリアでの賑わい創出につながった。 →夏には、自社イベント「とんぼら2016」を開催し、台船を使用したステージイベントにおいては、道頓堀川万灯祭の点灯式をあわせて開催し、堤灯の輝きとの相乗効果により、ひときわ盛り上がった。また、伝統行事をはじめ、地元関係者のご協力のうえ、様々なイベントが開催された。 →収支状況として、今年度の営業損益は928万円の黒字を見込んでおり、昨年度と比較して約3倍の収支となっている。地域活性化への貢献事業は、昨年度より約2倍の876万円を支出し取り組んでおり、トータルとして52万円の黒字を見込んでいる。5年目にして、黒字化の達成見込みであり、引き続き、「人を集める」「賑わいを創る」「道頓堀ブランドを高める」につながるよう精一杯取り組んでいきたい。 →オープンカフェの件数は増えているが、エリアは広がったのか。 →西側エリアの大黒橋～新戎橋において、新たに1店舗と契約できた。東側エリアのうち、特に、相合橋～日本橋では、ほとんどの店舗が新規契約であり、エリアは拡大している。 →春節イベントとは、どのようなものか。 →外国人をターゲットにしたイベントであり、戎橋上でグリコを背景に写真撮影をしている方が、一人でも多く水辺に降りてきてもらい、弊社のキャラクターとの撮影会等を体験していただいた。 →反応はどうだったか。 →1月28日から5日間実施し、設定していた目標には届かなかったが、体験していただいた方には喜んでいただいた。課題はあったが、今後も日本人・外国人ともに楽しめるイベントを実施していきたい。東南アジアからの訪日者の傾向が変わってきており、近年若年層が増えてきている。若年層は、価格の高い春節期間ではなく、低価格の時期にくる傾向があり、春節イベント終了後に多くの方が道頓堀川に来ている。このように旅行形態が変わってきている中、傾向をきちんと把握し、効果的なイベントを実施していきたい。 →営業損益の増加に伴い地域貢献事業費も増えており、相乗効果が生まれている。南海電鉄(株)として、大阪市から委託料をもらっている状況で、地域貢献事業への持ち出しは当然に必要となってくるが、これまでの赤字を踏まえて、社内で地域貢献事業への支出について問題になったことはないか。 →我々は、この事業に誇りを持っている。今年度は相当努力したことにより、この収支につながった。そこまで儲けるつもりはないが、赤字になった時の補填がなく、継続していくには、ある程度余力が必要である。価格決定権を我々が持つことで、例えば、価格を上げて、イベント件数等が減ったとしても、同等の収支であれば、このエリアの価値が上がると考えている。公的空間を活用していくにあたり、今後、制度のあり方について協議していきたい。 →南海電鉄(株)によりこれだけの賑わいが創出されたので、大阪市としても柔軟な仕組みを検討していただきたい。 →とんぼりリバーウォークのホームページにおいて、3月のイベント予定を閲覧することができなかった。2～3ヶ月先のイベント情報を掲載できないか。 →イベント内容の確定は直前になることが多く、不確定な情報を開示することが困難であるが、出来る限り公開できるよう取り組んでいく。 		<ul style="list-style-type: none"> 加藤(関西学院大学) 新井(南海電鉄) 長尾(大阪市立大学) 嵯峨(南海電鉄) 長尾(大阪市立大学) 嵯峨(南海電鉄) 吉田(公認会計士) 和田(南海電鉄) 吉田(公認会計士) 吉田(公認会計士) 酒井(南海電鉄) 	

議 事 録	作成日	担当
	2017. 2. 23	南海電気鉄道株式会社 酒井大輔
→平成28年7月より、「Dotombori Channel」のアカウントでとんぼりリバーウォークのホームページに開設している。英語・日本語を中心に、韓国語や中国語、タイ語等も含めて、イベント予定や近隣商店街の紹介等を情報発信している。		嵯峨(南海電鉄)
→以前に「Dotombori Channel」を拝見したところ、多言語で様々な情報発信が行われていたが、まだ広く周知されていないように感じた。今後、さらなる広がりを期待する。イベントやロケーション撮影等の実施件数は格段に増加しており、引き続き、頑張っていたきたい。		豊島(弁護士)
→フォロワー数は、今日時点で565名であり、地元商店街や大阪中心等のシェアによる増加を目指していく。		嵯峨(南海電鉄)
→道頓堀を大阪最大の情報発信の場の一つとして考えていきたい。戎橋界隈に多くの人が集まっており、南北に通行している人は多いが、遊歩道へ降りてくる人は少なく、とんぼりリバーウォークで何をしているのか知られていない。TSUTAYA横には、道頓堀商店会の大型ビジョンがある。このビジョンを活用し、とんぼりリバーウォークや近隣商店会等で何をやっているのか情報発信していきたい。		北辻(道頓堀商店会)
→かに道楽前にもビジョンがあるが、旧式であるため作り変えを考えており、道頓堀やとんぼりリバーウォーク等の情報発信を行いたいと考えている。行政として風圧や荷重等の物理的な問題があると思うが、公共情報ボードとして活用できないか。2025年の大阪万博に向けて、道頓堀を大阪の情報発信基地として利用してはどうかと思っており、とんぼりリバーウォークのPRも含めて協力しながらやっていきたいと考えている。		北辻(道頓堀商店会)
(3) 検討事項		
◆西側エリアの新たな賑わい創出に向けた独立型店舗のエリア拡大について【試行実施】		
・概要を説明		棕本(河川課)
→湊町エリアにおいて、平成27年度から独立型店舗としてテキサスバーベキューが実施されている。一方で、深里橋から大黒橋においては、若手漫才師の練習や地元イベント等で利用されているが、イベント件数はあまり増えておらず、この区間の有効活用として、独立型店舗のエリア拡大を提案したい。民間事業者から意欲的な意向があり、試行実施を目指していきたい。利用ルールは現行のものを適用し、利用料金については浮庭橋～深里橋の独立型店舗と同様の考え方により設定する。実施にあたっては、電源確保や雑排水処理等の課題があり、さらには周辺への煙や匂い等の影響も考えられるため、実施に向けて総合的に検討を進めていく。		
→エリアの拡大は行うが、今後、詳細検討が必要という理解でよいか。		加藤(関西学院大学)
→はい。		棕本(河川課)
→管理運営事業者として、南海の意見はどうか。		加藤(関西学院大学)
→店舗ができることにより、防犯面が向上し、周辺のゴミ等の減少も考えられ、西側エリアの新たな賑わいづくりとしてプラスの方向で考えている。		酒井(南海電鉄)
→非常に関心がある。課題は、水道・下水設備・トイレが無いことであり、クリアにしていきたいと思っている。トイレは昔はあったが、老朽化したことで撤去された。ぜひ、男女別トイレを設置していただきたい。		高井(道頓堀商店街振興組合)
→世界的に公衆トイレは難しい問題で縮小傾向にある。検討会としては、条件をクリアにして取り組んでいただきたい。場合によっては、業者選定を行うなどルールを作る必要がある。		加藤(関西学院大学)
→利用者側の立場ではトイレはあった方が良くと思うが、試行的に取り組む検討していくことが望ましい。		豊島(弁護士)
→利用者としては、近くに水道設備やトイレが無いと不便に感じる。		吉田(公認会計士)
→新たに下水を敷くのは当面考えられないとすれば、仮設トイレになるかもしれないが、大阪市として保健衛生上の魅力ある空間にしていくことを考えていくはず。ここでは、この制度を前に進めるという内容で良いか。		加藤(関西学院大学)
→トイレは行政的に難しい問題であり、例えば、募集するにあたり、仮設トイレを条件とする等今後検討していきたい。		棕本(河川課)
→博覧会の開催は、開催することが目的ではなく、大阪のまちづくりが重要でその手段として博覧会を誘致する。このエリアでも賑わいを創出することで周辺のまちづくりに寄与すると考えると、100年先には下水道が敷かれることも一つの考え方である。まちづくりを実施するにあたり、インフラがないことが問題であり、短期的に賑わい創出を目標にすることは良いが、その先としてこのエリアをどうしたいのかを考える必要がある。		加藤(関西学院大学)
→地下鉄の出口付近において、現在自転車駐輪場になっているが、ここを整備すればもっと良くなると思う。		大谷(塩草連合会会長)
→四ツ橋線26番出口付近は、中央区役所にもご協力をいただき、4～5年前から都市整備局へ依頼をしているが、あまり進んでいない。地域の発展には、出口付近ととんぼりリバーウォークを面的に考えて進めていただきたい。		高井(道頓堀商店街振興組合)
→このような取組みは、長期的なコンセプトがあった方が良く。様々な課題はあるが、今回は試行実施として進めていただければと思う。		加藤(関西学院大学)
◆広告に関する審査基準(利用ルール)の改正について		
・概要を説明		棕本(河川課)
→現行ルールでは、広告掲載において承認しない業種・事業者を定めており、「たばこ」が明記されている。		
→平成16年に財務省より「製造たばこに係る広告を行う際の指針」が告示されており、未成年者の喫煙防止や健康への配慮が示されている一方、喫煙マナーや喫煙防止に関する広告は対象となっていない。また、本市交通局の広告基準においても、喫煙マナーに関する広告を承認しており、現行ルールにおいて喫煙マナーや喫煙防止に関する広告は承認できるよう現行ルールを改正したいと考えている。		
→喫煙マナーや未成年者の喫煙防止に関する広告を緩和する旨、審査基準に追記する。		加藤(関西学院大学)
(4) その他		
◆道頓堀川におけるネーミングライツに関わる取り組みについて		
・概要を説明		棕本(河川課)
→とんぼりリバーウォークには、3箇所船着場があり、周辺に小さなサイン柱があるのみで、非常に分かりにくく状況である。本市では舟運の活性化を目指しており、船着場にネーミングライツを導入することで、効果的に船着場の場所・存在を知らせることができ、知名度の向上を図っていく。		
→3箇所全ての船着場を対象に、通称名を命名したい企業を募集し、その通称名を記載した表示板を船着場付近に設置する。対象期間は3年を予定しており、平成29年度より企業公募を行い、下半期に表示板が設置できるよう関係期間と調整中である。		
→この他にネーミングライツを実施する施設があり、一括で行ったりするのか。		加藤(関西学院大学)
→まずは、この船着場3箇所を考えている。本市建設局では、横断歩道橋においてネーミングライツを実施している事例があり、このようなイメージで実施することを考えている。		棕本(河川課)
→複数の募集があった場合、どのような基準で選定するのか。		豊島(弁護士)
→募集価格が最も高い事業者を選定する予定である。また、先程の一斉募集について、今年度末に体育館や横断歩道橋等の一斉募集の仕組みができたが、関係期間との調整があるため、船着場単独での募集を予定している。		辻野(河川課)
→3箇所の船着場は一斉募集するのか、あるいは別々に募集するのか。		加藤(関西学院大学)
→太左衛門橋は人が多く集まるので最も価値が高く、湊町は周辺に飲食店が並んでいる。また、日本橋はバス駐車場があり、そこから外国人が降りてくる。このように、場所ごとの状況が異なるため、募集時期は同じだが、別々の募集を考えている。		辻野(河川課)
→地元の人も募集できるのか。利益相反の問題はないか。		加藤(関西学院大学)
→広告ではなく通称名を設置することで、船着場の存在をPRすることを考えている。屋外広告物条例にも該当せず、設置する表示板は河川施設である。ただし、維持管理は事業者にて実施していただく。あくまでも広告物ではなく、私権が設定されるわけではない。		辻野(河川課)
→文字数制限はあるのか。		長尾(大阪市立大学)
→文字の大きさを考慮しながら、表示板の長さ6mに収まる程度を想定しており、横断歩道橋の取決めを参考にしていく。		辻野(河川課)

議 事 録	作成日	担当
	2017. 2. 23	南海電気鉄道株式会社 酒井大輔
<p>◆御堂筋完成80周年記念事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要を説明 →本市では、今年の5月に御堂筋80周年を迎えるため、平成29年度に記念事業を実施する。 →テーマ毎にワークショップを開催し、その一つとして、御堂筋と繋がる道頓堀川を中心に水の都・大阪をテーマとしたワークショップを開催し、記念事業にあわせて様々な取組みを実施したいと考えている。 →具体的には、西側エリアの魅力創出の一つとして、水の都・大阪に関するパネル展示を実施したり、道頓堀川周辺の小学生を対象に、水辺に親しむイベントの開催を考えている。 →道頓堀川の未来を考えるにあたり、水辺だけでなく道路も含めた新たな魅力創出に向けた取組みができないか検討するため、「ソーシャルデザイン検討会」を立ち上げ、皆様と一緒に考えていきたいと思っている。座長には、加藤先生にご了承いただいております。この道頓堀川水辺空間利用検討会メンバーで議論していきたい。7月頃にアンケート調査を予定しており、この結果も考慮しながら考えていきたい。詳細は改めて説明させていただくので、よろしくお願ひしたい。 →2月9日に記念事業のロゴマークが決定しており、使用届を建設局窓口に提出していただければ、誰でも自由に使用することができるため、地域の皆様に周知していただきたい。 →地元の方々にもアイデアを伺うことになるので、よろしくお願ひしたい。 		<p>棕本(河川課)</p> <p>加藤(関西学院大学)</p>
<p>◆オープンカフェ等の不適正利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要を説明 →イベント件数が非常に増えるとともに、オープンカフェの出店数も年々増加しており、非常に賑わっている状況である。しかしながら、一方で、一部のオープンカフェや物販店において、現行ルールに適合しない不適正な利用が目立ってきている。 →オープンカフェは賑わい創出に不可欠なものであり、利用ルールに固執することなく、今後適正化について考えていきたい。この内容については、先程の「ソーシャルデザイン検討会」で改めて皆様と議論したいと考えている。 →例えば、飲食店のピーク時間の18時～22時において、遊歩道上段部を飲食店専用通路とし、通行人は下段部を通過していただく等現行ルールの緩和についても話し合いたい。 →管理運営事業者の南海電鉄株の意見はどうか。 →店舗前の遊歩道において、幅員の違いやベンチの有無など状況が異なっているため、様々な意見をいただいている。このような中、お願ひをしているが、難しい状況である。 →努力はしているが、指導が行き届かない状況であり、地元の皆様も一緒に協力していただき、取り組んでいきたいと思っている。 →杓子定規にルールを決めても上手くいかない部分は必ず残るし、性善説でお互いに上手くやっという前提だけではできない。契約エリア外で使用料を払わずに使用することは違反となるが、一律のルールでは本当の活性化にはならない。 →ルールを徹底するために指導する、あるいは罰則を設ける方法があるが、沿川店舗の方にも魅力ある空間を創っていただく意識を持ってもらえるような仕組みができないかと思っている。 →ルールを守ってもらうことが大切であり、罰則など強い権限を管理者へ与え、ルールを逸脱する場合は退出してもらうという強い意志で取り組むべき。南海電鉄株へ権限を与え、大阪市がバックアップすべきだと考える。 →南海電鉄株からはルールの緩和について意見が出ることを予想していたが。 →とんぼりリバーウォークの価値を高めるには、厳しすぎず緩すぎない程よい基準が必ずあると思うが、非常に難しく、ルールを守らせることは絶対に必要である。今回、結論は出ないが、テナントが納得できるような仕組みづくりを皆様と相談しながらやっていきたい。 →賑わい創出及び課題解決をしてもらうことで、南海電鉄株にも多大なる期待をしたいと思う。この問題は、ルールは緩く運用は厳しく、取引とは非常に厳しいルールの一つである。大阪市は公共、民間は営業利益を背負っており、一本のルールで片付けるのは難しいが、目標は一つなのでお願ひしたい。 →南海電鉄株として儲けようとは思っていない。儲けようと思えば、広がった面積分の料金をいただく提案があるが、公共空間としてきちんと対応していきたいプライドがあるため、今後考えていきたい。 →なんば駅前広場のエリアマネジメントがうまくいっていない中、道頓堀の成果がミナミのエリアマネジメントの方向性を示していると考えてるので、頑張っていたいただきたい。 		<p>棕本(河川課)</p> <p>加藤(関西学院大学) 酒井(南海電鉄)</p> <p>和田(南海電鉄) 加藤(関西学院大学)</p> <p>上田(河川課) 高井(道頓堀商店街振興組合)</p> <p>加藤(関西学院大学) 和田(南海電鉄)</p> <p>加藤(関西学院大学)</p> <p>和田(南海電鉄)</p> <p>加藤(関西学院大学)</p>
<p>(5) 全体を踏まえて</p> <ul style="list-style-type: none"> →大阪市関連部署の方が出席していただいているが、あまり発言がない。地元と連携して様々な取組みを行っていると思しますので、紹介していただきたい。さらには、アイデアを出していただきたい。 →事務局としても、今後考えていく。 		<p>豊島(弁護士)</p> <p>上田(河川課)</p>